

7月から9月は夏の熱中症等声かけ期間です！

農作業中の熱中症による死亡者が急増しています。

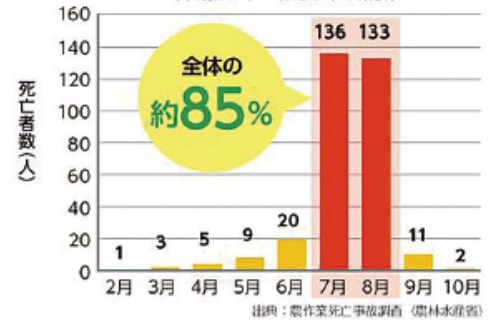
このうち、約85%が7～8月に発生しており、非常に熱中症リスクが高くなっています。

熱中症事故は、周りの人がお互いに気を配り、声を掛け合うことで、防げる可能性があります。

農業は1人作業が多く、熱中症になった際に自分では症状を自覚しにくいことから、熱中症が重篤化しやすい傾向にあります。

また、高温の日は疲れ等により、高所から転落するなどの事故が起きやすいので、注意が必要です。

農作業中の熱中症による月別の死亡事故件数
(平成27年～令和6年の累計)



熱中症対策の3つのポイント



温度やWBGT値を見て作業を考えよう

- 暑さに応じて、作業内容を調整
- 重い作業は、朝夕の時間帯にずらす、または休憩や給水の回数を増やす
- ※ 人体を外気との熱収支に着目した、熱中症予防を目的とする指標



こまめに休憩を取ろう

- 20分おきを目安に休憩
- 休憩時には水分・塩分補給を（コーヒー・緑茶は避け、水・スポーツ飲料など）
- 日陰や冷房のある場所で体を冷やす



もしもの時の応急処置

- 異常を感じたらすぐ作業を中断し、涼しい場所で衣服を緩めて身体を冷やす
- 意識がもうろうとしている・返答がおかしい場合は、直ちに119（または#7119）へ電話を

一人一人の「大丈夫？」が、命を守ります。
この夏は熱中症による死亡者0を目指しましょう！



その他熱中症対策は農水省HPをご覧ください

営農情報

生産資材ひろば

効果的な 電気柵の設置方法と 害獣対策資材の活用

野生動物による農作物等への被害が増えています。
電気柵の基本的な設置方法と注意点をお知らせします。

◆通電の良い場所に設置する

地面の乾いた場所や通電性のない地面（コンクリート・アスファルトなど）の場合動物に電流は流れません。少し田畑の内側に柵を設置するか、トタン板を敷くなど工夫が必要です。



◆傾斜地から離して設置する

柵を飛び越える場合があるので傾斜地から2m程度離して設置しましょう。

◆漏電防止の草刈りをする

草が電線に触れていると電圧が低くなります。バッテリーや電池も早く消耗します。

◆柵のそばのやぶをなくす

やぶは動物の隠れ家になります。柵の外際3m程度の刈り払いを行いましょう。

◆動物の鼻先の高さに電線を張る

動物の体には固い毛があるため、鼻先や肉球などにしか電流は流れません。電線は動物の鼻先の高さに1本張り、潜り抜けないようにさらに下に張る必要があります。

◆地面のくぼみは電線でふさぐ

地面のくぼみは電線を追加するなど隙間を必ずふさぎましょう。

◆定期的に点検し、補修、維持管理を行う

定期的に電圧チェックを行いましょう。落ち枝等で破損していないかも確認します。地形によっては、電流が流れていても地際から侵入している可能性があります。定期的に点検し安全な使用を心掛けましょう。

◆周囲を隙間なく囲う

動物は隙間を探し侵入しようとします。田畑の周囲をすべて囲うように設置しましょう。

◎害獣対策資材はチラシ等でお知らせしています。最寄りのJA営農経済センターへお問い合わせください。